



## 麦類赤かび病の防除は適期に必ず実施しましょう

### 1 赤かび病の発病条件と薬剤による防除適期

赤かび病は、出穂期以降に気温が高く、降雨が続くと発病してきます。麦類の開花期から 10 日間くらいが最も感染しやすい時期で、小麦では開花始期～開花期（出穂期 7～10 日後頃）、六条大麦では開花を確認した時期（出穂期 3 日後頃）、二条大麦では穂から葯が出ているのを確認した時期（出穂期 12～14 日後頃）が 1 回目薬剤防除の適期です。

### 2 各種麦の出穂期（予測）と防除時期（予測）

農業研究所発表の「農研速報」によりますと、麦類の出穂期は平年より遅く、六条大麦で 4 月上～中旬頃、小麦で 4 月中～下旬頃と予測されています。なお、播種時期や地域、圃場により生育のばらつきが大きく、また、今後の気温により更に早まることもあるため、下記を参考に、現地圃場では、麦の生育をよく観察し、防除時期の（目安）として利用し、計画的に薬剤防除を実施してください。また、より多くの地域における六条大麦、二条大麦の予測出穂期と防除適期については、病害虫防除所が「病害虫速報」で発表する予定になっていますので参照してください。

表 1 農業研究所（水戸市、龍ヶ崎市）における麦類の予測出穂期と赤かび病の防除適期

麦種	品 種	調査地点	播種期	予測出穂期	予想防除適期
六条大麦	カシマゴール	水戸市	11 月 4 日	4 月 1 日	4 月 4 日
		龍ヶ崎市	11 月 10 日	4 月 5 日	4 月 8 日
	カシマムギ	水戸市	11 月 4 日	4 月 6 日	4 月 9 日
		龍ヶ崎市	11 月 10 日	4 月 6 日	4 月 9 日
小麦	さとのそら	水戸市	11 月 4 日	4 月 17 日	4 月 24 日～ 27 日
			11 月 21 日	4 月 21 日	4 月 28 日～ 5 月 1 日
		龍ヶ崎市	11 月 10 日	4 月 12 日	4 月 19 日～ 22 日
			11 月 21 日	4 月 13 日	4 月 20 日～ 23 日

注)「農研速報」の、水戸市は 3 月 22 日、龍ヶ崎市は 3 月 20 日現在の予測出穂期（今後は平年並で推移すると予想）より、予想防除適期を算出しています。

麦赤かび病に有効な主な防除薬剤を表 2 に記載しました。各薬剤は、**麦種**（小麦、二条・六条大麦の別）や**散布方法**（無人ヘリコプター、少量散布装置、動力噴霧器など）により**希釈倍数**や**収穫前日数**、**使用回数**などが異なる場合があります。

なお、防除適期に 1 回目の薬剤防除を実施した場合でも、その後の気象条件が発病に好適な環境が続く場合には、薬剤散布後 7～10 日目に 2 回目の追加防除を実施してください。

表 2 小麦または六条・二条大麦 赤かび病の主な防除薬剤

（令和 5 年 3 月 29 日現在）

麦種 薬剤名	小 麦		六条・二条大麦		分類
	希釈倍数	使用時期 - 使用回数	希釈倍数	使用時期 - 使用回数	
トップジンM 水和剤	1,000～1,500 倍 (少量散布) 250 倍	収穫 14 日前-3 回以内 (出穂期以降は 2 回以内)	1,000～1,500 倍	収穫 30 日前-3 回以内 (出穂期以降は 1 回)	1
トップジンM ゾル	1,000～1,500 倍 (無人航空機) 8 倍	収穫 14 日前-3 回以内 (出穂期以降は 2 回以内)	1,500 倍 (無人航空機) 8 倍	収穫 14 日前-3 回以内 (出穂期以降は 1 回) 収穫 21 日前-3 回以内 (出穂期以降は 1 回)	
ストロビー フロアブル	2,000～3,000 倍 (少量散布) 500 倍	収穫 14 日前-3 回以内	2,000～3,000 倍	収穫 14 日前-3 回以内	11
チルト乳剤 25	1,000～2,000 倍 (無人航空機) 8 倍	収穫 3 日前-3 回以内 収穫 7 日前-3 回以内	1,000～2,000 倍 (無人航空機) 8 倍	収穫 21 日前-1 回	3
シルバキュア フロアブル	2,000 倍 (少量散布) 500 倍 (無人航空機) 16 倍	収穫 7 日前-2 回以内	2,000 倍 (無人航空機) 16 倍	収穫 14 日前-2 回以内	3
ワークアップ フロアブル	2,000～3,000 倍 (少量散布) 500～750 倍 (無人航空機) 10～24 倍	収穫 7 日前-3 回以内	2,000～3,000 倍 (少量散布) 500～750 倍 (無人航空機) 10～24 倍	収穫 7 日前-3 回以内	3

注 1) (少量散布) は、専用の少量散布用ノズルを装着した乗用型の地上液剤散布装置を使用して、250/10a で散布します。また、(無人航空機) は、無人ヘリコプターまたはドローンを用いた散布に限定されます。

注 2) 分類欄には、FRAC コードを記載しました。同一分類 (コード) は作用点が同じなので、連用は避けてください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 NEWS は JA 全農いばらきホームページでもご覧になれます。